

2024年 10月7日(月)―12月24日(火) 花園大学歴史博物館 (無聖館4階)

第1期:10月7日(月)―11月2日(土) 第2期:11月4日(月・振休)―11月30日(土) 第3期:12月2日(月)―12月24日(火) 開館時間=10時―16時 入館料=無料
休館日=日曜日(11月17日は開館)、祝日 ※但し、大学行事により臨時休館する場合があります。 主催=花園大学歴史博物館 協力=海清寺(兵庫県西宮市)、圓福寺(京都府八幡市)

達磨図(部分) 鄧州全忠自画像 大正5年(1916) 海清寺【1期】

na

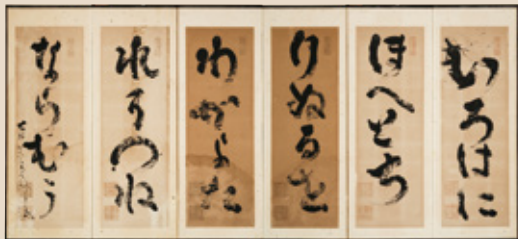
100年遠諱記念

南天棒

tem

Commemorating the 100th Memorial Year of Tōjū Zenchū

1000



100年遠諱記念

南天棒

明治・大正という激動の時代を駆け抜けた傑僧のひとりに鄧州全忠(中原鄧州、白崖窟、1839～1925)がいます。鄧州は南天の棒を携え、多くの人々を導いたことから「南天棒」の異名を持ち、今日においてはその名で広く知られています。

師は、天保10年(1839)、肥前国唐津(現=佐賀県唐津市)の生まれであり、雄香寺(長崎県平戸市)の麗宗全沢について剃髪しました。圓福寺(京都府八幡市)の石應宗珉や蘇山玄喬等に歴参したのち、蘇山法嗣のひとりである梅林寺(福岡県久留米市)の羅山元磨(1815～67)の印可を得ました。以後、大成寺(山口県周南市)や市ヶ谷の道林寺に住するほか、妙心寺(京都市)の特命により瑞巖寺(宮城県宮城郡松島町)に入寺しました。さらに、明治35年(1902)から大正14年(1925)に遷化するまでの約20年間にわたって海清寺(兵庫県西宮市)の住持をつとめました。

南天棒は諸国を行脚するとともに、数多くの弟子を指導しました。また、師は数多くの墨蹟と禅画を揮毫していることでも知られています。近代禅林において最も多くの



2



3



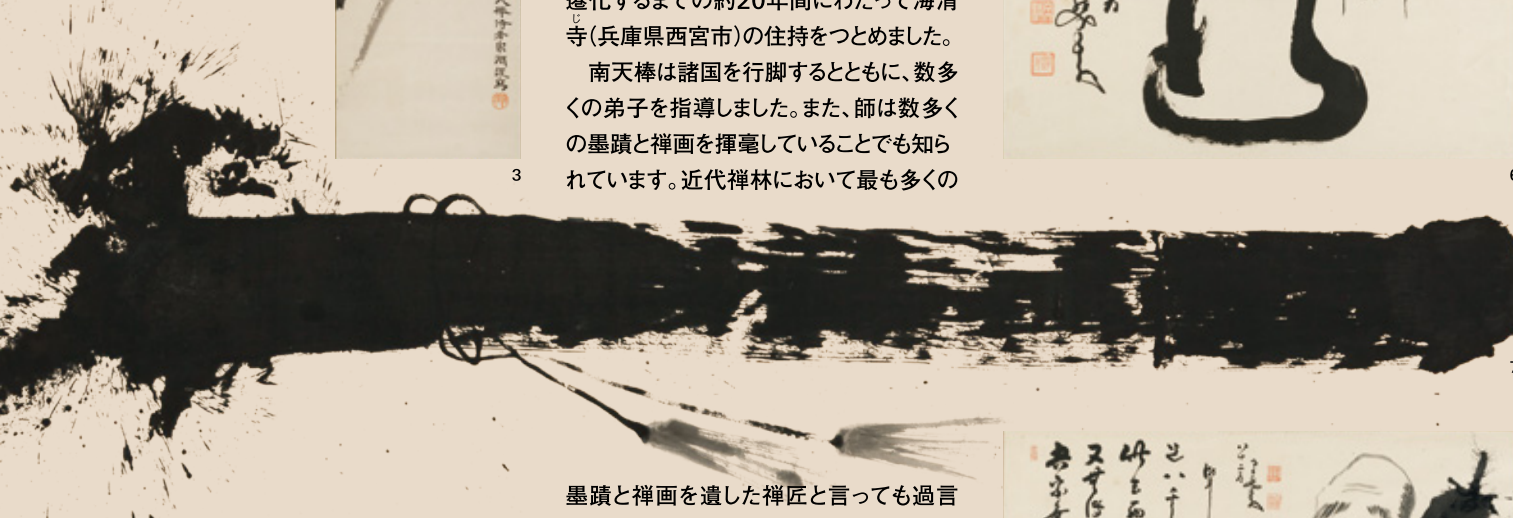
4



5



6



7

墨蹟と禅画を遺した禅匠と言っても過言ではないでしょう。豪放かつ温和でユーモラスな趣の遺墨は国内外の墨蹟・禅画愛好家を魅了し続けています。

本年、南天棒の100年遠諱を迎えるのを記念して、師の由緒寺院である海清寺に伝来する墨蹟と禅画を中心に、100点を超える南天棒ゆかりの品々を展覧します。その大半が未紹介作品であり、本展が初公開になります。本展では出品作品を通じて、南天棒の足跡と禅風に触れていただくとともに、海清寺に蔵されている師の遺墨の魅力に迫ります。

- 1 墨蹟いろは歌(右隻) 鄧州全忠筆 大正3年(1914) 海清寺【2期】
- 2 乃木希典像(部分) 鄧州全忠自画賛 大正10年(1921) 海清寺【2期】
- 3 鄧州全忠像 自賛・寛州宗潤(井澤寛州)筆 大正6年(1917) 海清寺【3期】
- 4 南天棒誓詞松図 鄧州全忠賛・玉仙筆 大正5年(1916) 海清寺【1期】
- 5 鄧州全忠像 自賛・東岳筆 大正7年(1918) 海清寺【1期】
- 6 面壁達磨図 鄧州全忠自画賛 大正9年(1920) 海清寺【1期】
- 7 南天棒図(部分) 鄧州全忠自画賛 大正元年(1912) 海清寺【1期】
- 8 達磨図 鄧州全忠自画賛 大正9年(1920) 海清寺【2期】
- 9 富士・寝牛図 鄧州全忠自画賛 大正14年(1925) 海清寺【3期】
- 10 隻手 鄧州全忠賛 大正5年(1916) 海清寺【2期】



9



10



8



〈交通案内〉●京都駅より/JR嵯峨野線「円町駅」下車徒歩8分、市バス26・205「太子道」下車徒歩5分 ●京阪三条駅より/京都バス62・63・65・66「西ノ京馬代町」下車徒歩2分、地下鉄東西線「西大路御池駅」下車徒歩12分 ●阪急西院駅より/市バス26・27・特27・91・202・203・205「太子道」下車徒歩5分 ※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

花園大学歴史博物館(無聖蹟4階)
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壱ノ内町8-1
TEL 075-8111518(1代)
FAX 075-8111966(4)
<https://www.hanazono.ac.jp>